

「将来にわたって輝き続けるまち 赤穂」 の創造に向けて



10月は地域が熱く燃える秋祭りの季節です。屋台の一部を新調した塩屋の大屋台、東地区は屋根飾りのメッキ等を張り替え、西地区は高欄掛と水引幕を新調しました。塩屋荒神社秋祭りでは、男たちが誇りと意地をかけて、輝きを増したその屋台を天高く差し上げ、秋祭りのフィナーレを飾りました。(10/23)

平成22年度決算のあらまし	p 2～9
1 一般会計決算 2 財政分析 3 市債 4 基金	
5 債務負担行為の状況 6 企業会計手法による財政状況の分析	
病院事業の決算	p 10～11
水道事業の決算	p 12～13
介護老人保健施設事業の決算	p 14
平成23年度予算上半期の状況	p 15
写真で見る決算	p 16

'11
財政特集号
平成22年度
決算

平成23年11月10日発行

「将来にわたって 輝き続けるまち 赤穂」の創造に向けて

平成22年度は、「快適なまち・快適なとき・快適な暮らし 赤穂の創造」の実現を目指し、市政の5本柱である・快適なまちづくり・活力あるまちづくり・すこやかなまちづくり・こころ豊かなまちづくり・自律と協働のまちづくりを、着実に推進し、『水とみどりにつつまれた歴史文化交流都市』の建設に向けて、厳しい財政環境の中、人口減少社会に的確に対応するため施策・事業の優先順位の厳しい選択と集中を行い、財源の確保と行財政の健全運営に配慮しながら、市民福祉の増進に努めました。

平成22年度における財政状況は、歳入において、企業収益の回復による法人市民税の増収などにより、一般財源の基幹である市税収入は微増となりました。また、地方交付税に臨時財政対策債を加えた実質的な地方交付税総額は大幅な増となりました。

歳出については、有年地区土地区画整理事業、密集住宅市街地整備促進事業、塩屋児童館建設事業など、生活関連基盤の整備や地域振興の更なる発展に資する施策等に積極的に取り組みました。

また、財政構造の健全化を図るため、事務経費の一層の節減を行い、簡素でより効率的な財政運営に努めるとともに、「第6次赤穂市行政改革大綱」に基づき、中長期的な視点に立った取り組みを行いました。

各会計別決算状況

(1万円未満四捨五入)

会計区分	歳入			歳出			
	22年度	21年度	伸び率%	22年度	21年度	伸び率%	
一般会計	203億 5,488万円	197億 9,157万円	2.8	199億 7,253万円	195億 916万円	2.4	
特別会計	国民健康保険事業	54億 71万円	52億 5,218万円	2.8	51億 7,796万円	50億 5,864万円	2.4
	老人保健医療	3,516万円	1,918万円	83.3	1,114万円	965万円	15.4
	職員退職手当管理	11億 653万円	7億 5,498万円	46.6	11億 653万円	7億 5,498万円	46.6
	公共下水道事業	26億 6,887万円	34億 8,462万円	△ 23.4	26億 6,882万円	34億 8,442万円	△ 23.4
	農業集落排水事業	2億 2,439万円	2億 5,485万円	△ 12.0	2億 2,439万円	2億 5,485万円	△ 12.0
	墓地公園整備事業	819万円	1,576万円	△ 48.0	819万円	1,576万円	△ 48.0
	介護保険	31億 6,209万円	29億 9,454万円	5.6	31億 2,075万円	29億 5,888万円	5.5
	駐車場会計	1億 2,223万円	1億 2,261万円	△ 0.3	1億 2,223万円	1億 2,261万円	△ 0.3
	土地区画整理事業清算金	235万円	420万円	△ 44.0	235万円	420万円	△ 44.0
	後期高齢者医療保険	5億 4,864万円	5億 2,709万円	4.1	5億 3,931万円	5億 1,671万円	4.4
小計	132億 7,916万円	134億 3,001万円	△ 1.1	129億 8,167万円	131億 8,070万円	△ 1.5	
企業会計	病院事業	97億 4,738万円	96億 5,643万円	0.9	104億 8,708万円	103億 949万円	1.7
	介護老人保健施設事業	3億 3,346万円	3億 1,368万円	6.3	3億 3,291万円	3億 1,229万円	6.6
	水道事業	15億 7,286万円	11億 944万円	41.8	18億 8,454万円	14億 6,149万円	28.9
	小計	116億 5,370万円	110億 7,955万円	5.2	127億 453万円	120億 8,327万円	5.1
合計	452億 8,774万円	443億 113万円	2.2	456億 5,873万円	447億 7,313万円	2.0	

(注：企業会計には消費税額を含む)

平成22年度市民1人当たりの決算額 **896,165円**

※平成23年3月31日現在の住民基本台帳人口50,949人で計算したものです。

一般会計 **392,010円**

特別会計・企業会計 **504,155円**

1 一般会計決算



市の会計の中心をなす一般会計の決算収支は、歳入が203億5,488万円、歳出が199億7,253万円で、歳入・歳出の差引き額から翌年度に繰り越すこととなった財源を差引きした実質収支は2億8,767万円となりました。

歳入決算は、前年度と比べ2.8%の増加となりました。主な特徴として、国庫支出金が17.7%の減となる一方、地方交付税が17.6%の増、臨時財政対策債や都市計画事業債の増に伴い市債が24.9%の増となっています。

市税など市が自身で収入することができる財源（自主財源）の歳入全体に占める割合は、地方交付税（依存財源）が増となったことなどにより、前年度比1.1ポイント減少して52.2%となっています。多様な行政サービスを提供していくうえで、この割合が高いほどより自主的かつ安定した事業を展開することができます。

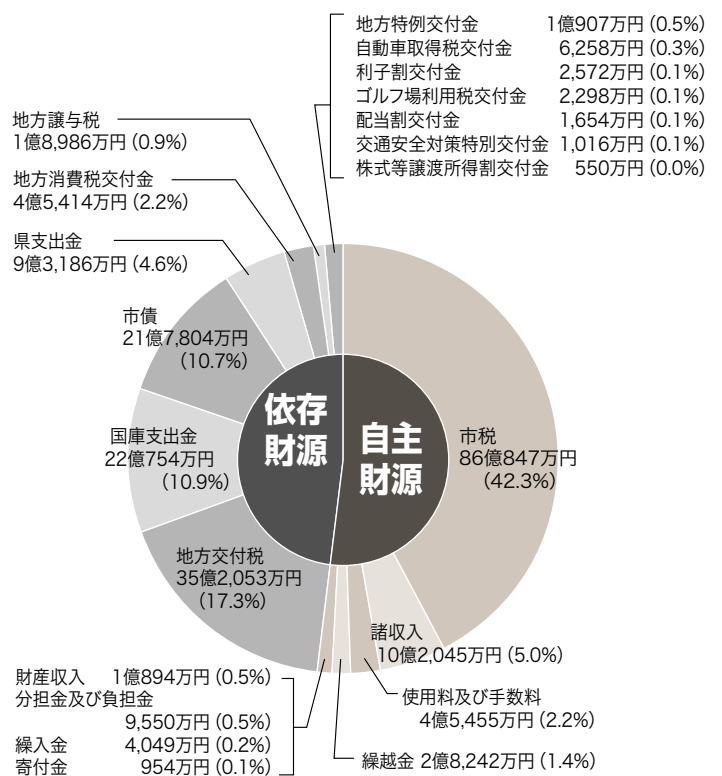
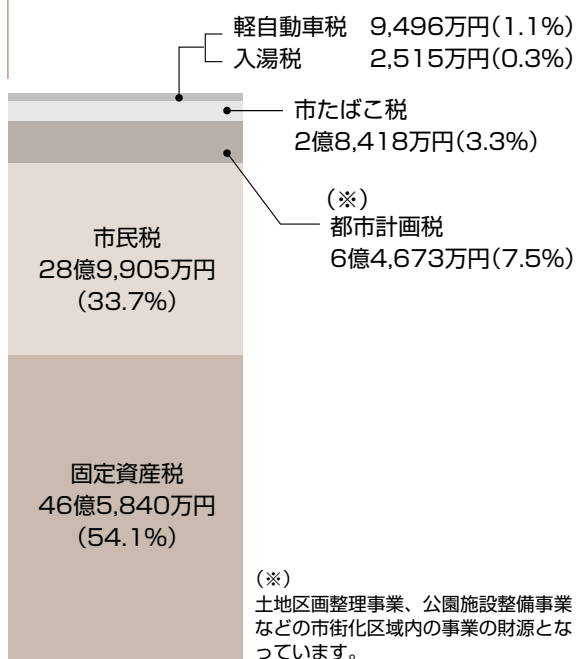
歳入総額

203億5,488万円

自主財源 **106億2,036万円** (52.2%)
 依存財源 **97億3,452万円** (47.8%)

市税の内訳

総額 **86億847万円**



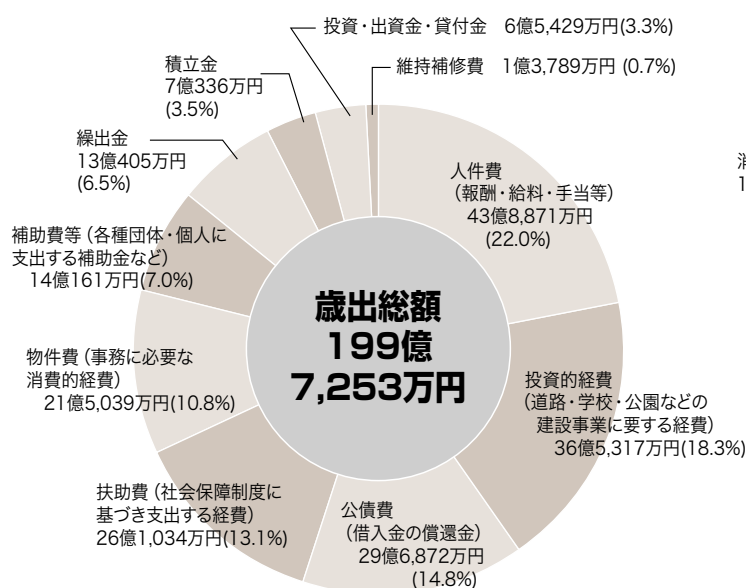


歳出決算は、前年度より2.4%の増加となりました。主な増減内訳として、職員退職手当管理特別会計への繰出金の増などにより総務費が22.2%の増、子ども手当の支給などにより民生費が19.0%の増、また、耐震対策補強事業の実施などにより教育費が13.1%の増となっています。

街路や公園等の建設事業に要する投資的経費は、国の「地域活性化・きめ細かな臨時交付金」を活用し、市単独事業の追加を行ったことなどにより19.2%の増となっています。

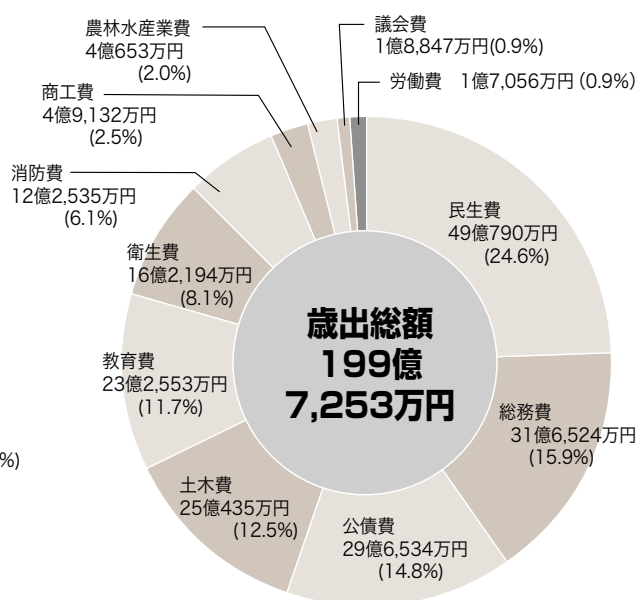
性質別内訳

経済的性質を基準として分類され、これにより経費の構造や財政体質を知ることができます。

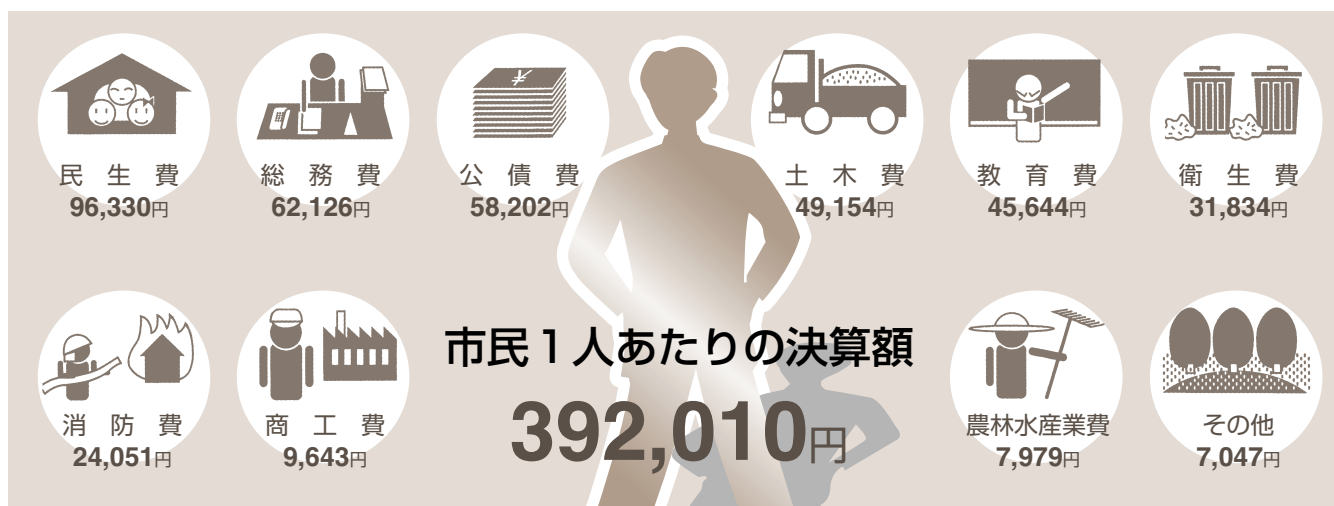


目的別内訳

各行政目的別、つまり各部局ごとの仕事の内容によって分類され、これにより各部課ごとの経費の比重を知ることができます。



市民1人あたりの決算額 (目的別)



2 財政分析

市の財政の状態を分析するうえで用いられる指数及び比率には、次のようなものがあります。

①財政力指数(3カ年平均)

地方公共団体の財政力を示す指数として用いられ、1を超えるほど財源に余裕があるとされています。

	22年度(H20~H22)	21年度(H19~H21)
赤穂市	0.732	0.754
県平均	0.734	0.752
県内市平均(神戸市除く)	0.754	0.778

③市債・基金1人あたり現在高(普通会計ベース)

家庭では、家を立てるときや車を買うときに借り入れる「ローン」にあたる「市債現在高」と「貯金」にあたる「基金現在高」を人口一人あたりに直すと以下のとおりです。

	市債現在高(借金)	基金現在高(貯金)
赤穂市	451,252円	56,201円
県内市平均	545,962円	63,425円

②経常収支比率(普通会計ベース)

人件費や公債費など、経常的に支出しなければならない経費に充てられた一般財源の経常一般財源(毎年経常的に収入され、用途を特定されないお金)総額に対する割合を、経常収支比率といいます。

この比率が高いほど自由に使えるお金の割合が少なく、道路や公園の整備をはじめ、市民の新しいニーズにこたえていく余力がなくなっていることを意味します。

	22年度	21年度
赤穂市	84.7	90.5
県平均	91.8	94.4
県内市平均(神戸市除く)	90.3	93.1



財政健全化判断比率

1 実質赤字比率

標準財政規模(市税などの一般財源の標準規模)等に対する、実質赤字額の比率です。

2 連結実質赤字比率

公営企業会計を含む全会計の赤字や黒字を合算し、市全体としての赤字の程度を示します。

3 実質公債費比率(3カ年平均)

標準財政規模等に対する、市が借り入れた借金(市債)の返済費用である公債費や、病院事業・下水道事業などの公営企業会計に対して公債費の補てんのために支出した額(繰入金)の合計額の割合を表す指標で、市の実質的な借入金の負担比率を示します。18%を超えると市債の発行にあたり県の許可が必要になりますが、平成22年度決算においては12.3%となり、前年度比で1.9ポイント減少しています。

4 将来負担比率

土地開発公社や病院事業・水道事業を含め、市として将来負担すべき実質的な負債の総額の標準財政規模を基本とした額に対する比率です。

一般会計等の借入金(地方債)や将来払っていく可能性のある負担等の、現時点での残高を指標化しており、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示すもので、比率が低いほど財政状態が良いことを表します。

区分	1 実質赤字比率	2 連結実質赤字比率	3 実質公債費比率	4 将来負担比率
赤穂市	—	—	12.3	180.3
県平均			12.7	127.7
県内市平均(神戸市除く)			12.5	111.5
早期健全化基準	13.03	18.03	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	35.00	35.0	

実質赤字額及び連結実質赤字額がない場合は、「—」と記載しています。

4 基金

事業の推進、財源調達のために必要な資金を積立てて運用する基金等の状況は、次表のとおりです。

■基金内訳(一般会計+特別会計)

基金名		現在高			
1	財政調整基金	7億9,439万円			
2	市債管理基金	3億5,754万円			
3	その他特定目的基金	29億4,791万円			
主なもの	(都市施設等整備事業基金)	3億2,738万円	内	現金	36億1,164万円
	(健康管理施設整備基金)	3億1,558万円		出資金	500万円
	(赤穂ふるさとづくり基金)	1,333万円		有価証券	336万円
	合計	40億9,984万円		土地	4億7,984万円

3 市債

住みよいまちづくりを進めるために、道路や公園、下水道などの生活環境施設や、学校などの教育施設の整備を積極的に行っていますが、単年度の市税等だけでは、これらの財源をまかないきれません。

また、これらの事業効果は後年度に及ぶものであり、後年度の世代との負担を均等にすることからも、必要な財源の一部を市債として借入れ、後年度に市税等で償還(返済)しています。

■市債の状況

区分	21年度末 現在高	22年度中増減		22年度末 現在高
		市債借入額	元金償還額	
一般会計	236億1,140万円	21億7,804万円	25億9,953万円	231億8,991万円
公共下水道事業特別会計	179億1,773万円	9億3,810万円	13億4,869万円	175億714万円
農業集落排水事業特別会計	24億8,806万円	5,170万円	1億1,697万円	24億2,279万円
駐車場事業特別会計	12億205万円		1億378万円	10億9,827万円
合計	452億1,924万円	31億6,784万円	41億6,897万円	442億1,811万円

赤穂市の家計簿 ~一般会計決算を家計に例えると~

市の決算額はおよそ200億円という大きな額のため、このままでは実感がわきにくいものです。そこで、市の財政状況を年収500万円の家計に置き換えて表してみました。

【収入】

赤穂市の一般会計決算(平成22年度決算)		赤穂市の家計簿			
		収入項目	年間収入	1ヵ月の収入	
自主財源	市税・使用料手数料など	105億7,988万円	給料・ボーナス	500万円	42万円
	繰入金	4,049万円	貯金の取崩し	2万円	0万円
依存財源	国県支出金 地方交付税など	75億5,647万円	親からの援助、 子ども手当など	357万円	30万円
	市債	21億7,804万円	借金	103万円	8万円
収入合計		203億5,488万円	収入合計	962万円	80万円

【支出】

赤穂市の一般会計決算(平成22年度決算)		赤穂市の家計簿		
		支出項目	年間支出	1ヵ月の支出
人件費	43億8,871万円	生活費(食費)	208万円	17万円
扶助費	26億1,034万円	医療費、保育料など	123万円	10万円
公債費	29億6,872万円	ローンの返済	140万円	12万円
物件費等 補助費 投資及び 貸付金など	43億4,418万円	光熱水費、電話代、 消耗品、寄付金、 冠婚葬祭費、交際費など	205万円	17万円
繰出金	13億405万円	子どもへの仕送り	62万円	5万円
積立金	7億336万円	貯金	33万円	3万円
投資的経費	36億5,317万円	自宅のリフォーム、 自家用車購入など	173万円	15万円
支出合計	199億7,253万円	支出合計	944万円	79万円

★市債残高 231億8,991万円 ローン残高 1,096万円(前年度1,134万円)

5 債務負担行為の状況

債務負担行為とは、後年度において支出の義務を負う行為、例えば数年度にわたる工事を一括して契約することです。平成22年度末の状況は、次表のとおりです。

■債務負担行為の状況

事業名	債務負担行為 限度額	期間	23年度以降 支出予定額
赤穂御崎地区 国立公園 施設建設事業	15億1,344万円	平5 } 平24	1億1,490万円
温泉源掘削 事業補助	赤穂観光協会が事業資金 として金融機関より融資 を受けた額の元利償還金 の1/2	平12 } 平26	債務負担行為 限度額と同じ
電算基幹業務 再構築事業	3億8,220万円	平23 } 平28	3億8,220万円
戸籍事務電 算化事業	1億6,695万円	平23 } 平28	1億6,695万円
赤穂駅周辺整備 株式会社の施設 取得資金等に 係る損失補填	赤穂駅周辺整備株式 会社が施設取得資金等 として金融機関から融資 を受ける27億3,000万円	平16 } 平25	7億3,628万円



6 企業会計手法による 財政状況の分析

赤穂市の財政状況を検討する一つの手法として、企業会計的な考え方を取り入れた「財務書類4表」を作成しています。「バランスシート（貸借対照表）」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」の4表から、資産や負債の状態（ストック情報）や行政サービスに要したコスト（フロー情報）、実際の資金の流れをみることで、より詳細にわかりやすく財政状況を把握できます。

① バランスシート

資産	1,080億円
(市民1人あたり)	212万円
負債	320億円
(市民1人あたり)	62万8千円
純資産	760億円
(市民1人あたり)	149万2千円

■ バランスシートからわかること

バランスシートとは、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源（負債、純資産）で調達してきたかを総括的に対照表示したものです。

赤穂市の資産については、有形固定資産（建物等）の減価償却等に伴う減少があるものの、基金等の増加などにより、前年度と比べて増加しています。

一方、負債については減少傾向にあり、その要因としては、損失補償等の縮減や市債の計画的な償還などがあげられます。

また、負債と純資産が資産に占める割合を比較すると、負債が29.6%（平成21年度30.9%）、純資産が70.4%（平成21年度69.1%）となり、前年度と比べて負債の割合が減少していることから、将来への負担は減少傾向にあるといえます。

[注]

- ・普通会計を対象としています。
- ・各表内の〔 〕は、対前年度増減額です。
- ・市民1人あたりの各表は、平成23年3月31日現在の住民基本台帳登録人口（50,949人）で計算しています。
- ・表示単位未満は「-」としています。

平成22年度バランスシート（平成23年3月31日現在）

借 方		貸 方	
資産の部		負債の部	
1. 公共資産	963億円 (△ 8億円)	1. 固定負債	283億円 (△ 13億円)
(1) 有形固定資産	961億円 (△ 8億円)	(1) 地方債	206億円 (△ 2億円)
(2) 売却可能資産	2億円 (-)	(2) 退職手当引当金	33億円 (△ 5億円)
2. 投資等	101億円 (9億円)	(3) その他	44億円 (△ 6億円)
(1) 投資及び出資金	74億円 (4億円)	2. 流動負債	37億円 (1億円)
(2) 貸付金	1億円 (-)	(1) 翌年度償還予定地方債	24億円 (△ 2億円)
(3) 基金等	26億円 (5億円)	(2) その他	13億円 (3億円)
3. 流動資産	16億円 (4億円)	負債合計	320億円 (△ 12億円)
(1) 現金・預金	15億円 (4億円)	純資産の部	760億円 (17億円)
(うち歳計現金)	(4)億円 ((1)億円)	純資産合計	760億円 (17億円)
(2) 未収金	1億円 (-)		
資産合計	1,080億円 (5億円)	負債及び純資産合計	1,080億円 (5億円)

市民1人あたりのバランスシート（平成23年3月31日現在）

借 方		貸 方	
資産の部		負債の部	
1. 公共資産	1,890千円 (△ 7千円)	1. 固定負債	555千円 (△ 23千円)
(1) 有形固定資産	1,887千円 (△ 6千円)	(1) 地方債	403千円 (△ 4千円)
(2) 売却可能資産	3千円 (△ 1千円)	(2) 退職手当引当金	65千円 (△ 9千円)
2. 投資等	198千円 (19千円)	(3) その他	87千円 (△ 10千円)
(1) 投資及び出資金	145千円 (8千円)	2. 流動負債	73千円 (3千円)
(2) 貸付金	1千円 (-)	(1) 翌年度償還予定地方債	48千円 (△ 2千円)
(3) 基金等	52千円 (11千円)	(2) その他	25千円 (5千円)
3. 流動資産	32千円 (8千円)	負債合計	628千円 (△ 20千円)
(1) 現金・預金	30千円 (8千円)	純資産の部	1,492千円 (40千円)
(うち歳計現金)	(8)千円 ((2)千円)	純資産合計	1,492千円 (40千円)
(2) 未収金	2千円 (-)		
資産合計	2,120千円 (20千円)	負債及び純資産合計	2,120千円 (20千円)

用語解説

- 有形固定資産 道路等の社会基盤となる資産、社会教育施設等の公共サービスに供されている資産
- 売却可能資産 遊休資産や未利用資産等の売却が可能な資産
- 投資及び出資金 債券及び株式並びに財団法人の寄付行為に係る出金等

- 現金預金 歳計現金等
- 未収金 税等の未収金
- 退職手当引当金 特別職を含む全職員が年度末に普通退職したと仮定した場合の退職手当見込額

②行政コスト計算書

経常行政コスト 160億円
(市民1人あたり 31万3千円)

経常収益 10億円
(市民1人あたり 1万8千円)

純経常行政コスト 150億円
(市民1人あたり 29万5千円)

■行政コスト計算書からわかること

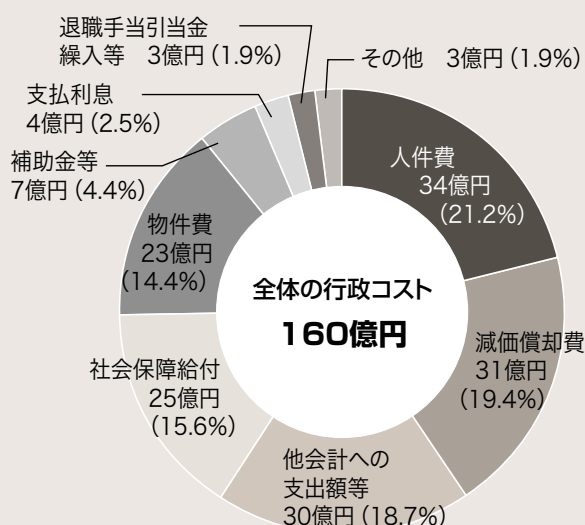
行政コスト計算書とは、1年間の行政活動のうち、資産形成につながらない人的サービスや福祉の給付サービスなどのための経費と、それに対する直接の対価として得られた財源を対比させたものです。

平成22年度における赤穂市の経常行政コストは160億円(市民1人あたり31万3千円)、費用を賄うための経常収益(受益者負担)は10億円(市民1人あたり1万8千円)で、差引の純経常行政コスト150億円(市民1人あたり29万5千円)は、地方税や地方交付税といった一般財源等で賄われています。

平成22年度行政コスト計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

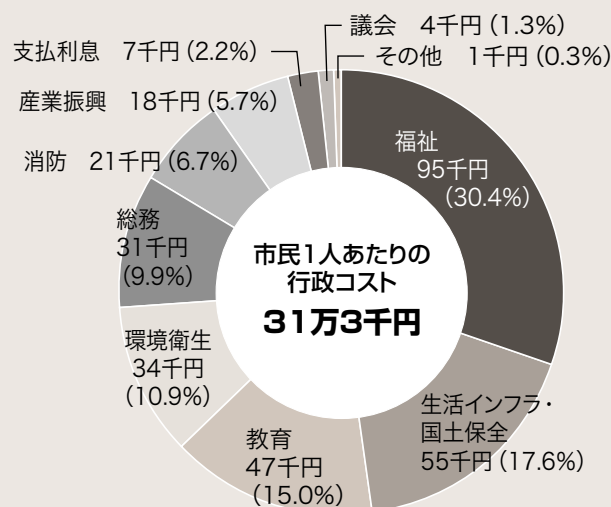
経常行政コスト	160億円(△4億円)
1. 人にかかるコスト	39億円(△1億円)
(1)人件費	34億円()
(2)退職手当引当金繰入等	3億円(△1億円)
(3)賞与引当金繰入額	2億円()
2. 物にかかるコスト	55億円(1億円)
(1)物件費	23億円(1億円)
(2)維持補修費	1億円()
(3)減価償却費	31億円()
3. 移転支的コスト	62億円(△4億円)
(1)社会保障給付	25億円(6億円)
(2)補助金等	7億円(△9億円)
(3)他会計への支出額等	30億円(△1億円)
4. その他のコスト	4億円()
(1)支払利息	4億円()
(2)回収不能見込計上額等	- ()
経常収益	10億円()
1. 使用料・手数料	5億円()
2. 分担金・負担金・寄附金	5億円()
純経常行政コスト (経常行政コスト-経常収益)	150億円(△4億円)



市民1人あたりの行政コスト計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

経常行政コスト	313千円(△6千円)
1. 人にかかるコスト	76千円(△2千円)
(1)人件費	66千円()
(2)退職手当引当金繰入等	6千円(△2千円)
(3)賞与引当金繰入額	4千円()
2. 物にかかるコスト	109千円(4千円)
(1)物件費	47千円(4千円)
(2)維持補修費	2千円()
(3)減価償却費	60千円()
3. 移転支的コスト	121千円(△7千円)
(1)社会保障給付	50千円(13千円)
(2)補助金等	13千円(△17千円)
(3)他会計への支出額等	58千円(△3千円)
4. その他のコスト	7千円(△1千円)
(1)支払利息	7千円(△1千円)
(2)回収不能見込計上額等	- ()
経常収益	18千円()
1. 使用料・手数料	9千円()
2. 分担金・負担金・寄附金	9千円()
純経常行政コスト (経常行政コスト-経常収益)	295千円(△6千円)



用語解説

- 退職手当引当金繰入等 将来の退職手当のうち当期に発生した分
- 物件費 旅費、備品購入費等
- 社会保障給付 生活保護費等
- 他会計への支出額等 特別会計等他会計への財政支出

③純資産変動計算書

期首純資産残高	743億円
(市民1人あたり)	145万8千円
年間変動額	+17億円
(市民1人あたり)	3万4千円
期末純資産残高	760億円
(市民1人あたり)	149万2千円

■純資産変動計算書からわかること

純資産変動計算書とは、バランスシートの純資産の部に計上されている各数値が、1年間でどのように変動したかを表したものです。純資産の部は今までの世代が負担してきた部分ですので、純資産が増加すると、現役世代が自らの負担によって、将来世代も利用可能な資産を蓄積し、将来世代の負担を軽減していることを表します。反対に純資産が減少すると、現役世代が将来世代にとっても利用可能であった資産を消費して行政サービスを受け一方で、将来世代にその分の負担を先送りすることを表しています。

平成22年度バランスシートの純資産残高である「期首純資産残高」が743億円(市民1人あたり145万8千円)、平成22年度バランスシートの純資産残高である「期末純資産残高」は760億円(市民1人あたり149万2千円)で、差引17億円(市民1人あたり3万4千円)の純資産の増額となっています。

純資産変動計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	全 体	市民1人あたり
1. 期首純資産残高	743億円	1,458千円
2. 純経常行政コスト	△150億円	△295千円
3. 財源調達	165億円	325千円
(1) 地方税	87億円	170千円
(2) 地方交付税	35億円	69千円
(3) 経常補助金	27億円	53千円
(4) 建設補助金	4億円	9千円
(5) その他収入	12億円	24千円
4. その他	2億円	4千円
5. 期末純資産残高	760億円	1,492千円

用語解説

- 期首純資産残高 前年度末の純資産の額
- 純経常行政コスト 行政コスト計算書により算定される数値
- その他 資産の除売却損益、資産の再評価による損益等

④資金収支計算書

経常的収支	55億円
(市民1人あたり)	10万9千円
公共資産整備収支	△10億円
(市民1人あたり)	△2万1千円
投資・財務的収支	△44億円
(市民1人あたり)	△8万6千円
当期収支	1億円
(市民1人あたり)	2千円

■資金収支計算書からわかること

資金収支計算書とは、歳計現金(=資金)の出入りの情報を、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」の3つの区分に分けて表示したものです。

経常的収支は、人件費や物件費などの支出と、地方税や地方交付税などの収支であり、55億円(市民1人あたり10万9千円)の資金余剰(黒字)となっています。

公共資産整備収支は、社会資本整備への支出と、その財源となった国・県補助金や地方債などの収支であり、10億円(市民1人あたり2万1千円)の資金不足(赤字)となっています。

投資・財務的収支は、地方債の償還、貸付金などの支出と、その財源となった国・県補助金や貸付金の回収額などの収支であり、44億円(市民1人あたり8万6千円)の資金不足(赤字)となっています。

全体の当期収支としては、経常的収支における資金余剰により、公共資産整備収支、投資・財務的収支で生じている資金不足(赤字)を補てんし、当期収支は1億円(市民1人あたり2千円)の黒字となっています。

資金収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	全 体	市民1人あたり
1. 経常的収支	55億円	109千円
2. 公共資産整備収支	△10億円	△21千円
3. 投資・財務的収支	△44億円	△86千円
4. 当期収支	1億円	2千円
5. 期首資金残高	3億円	6千円
6. 期末資金残高	4億円	8千円
(基礎的財政収支)		
収入総額	200億円	393千円
支出総額	△198億円	△389千円
地方債発行額	△22億円	△43千円
地方債元利償還額	30億円	58千円
減債基金等増減額	3億円	6千円
7. 基礎的財政収支	13億円	25千円

用語解説

- 経常的収支 経常的な行政活動の収支で、その他の収支に含まれないもの
- 公共資産整備収支 公共資産の整備にかかる収支
- 投資・財務的収支 地方債の元利償還、発行額の収支等
- 基礎的財政収支 いわゆるプライマリーバランスのことで、公債費関連の歳入・歳出を除いた基礎的な財政収支



病院事業の 決算

問い合わせ先
市民病院財務課 ☎43・6421

業務の状況

平成22年度の延利用患者数は入院120,845人、外来241,648人でした。一日平均患者数は入院331人、外来994人で、医師、看護師など総勢394人の職員で医療活動を行いました。

また、医療従事者の充足による診療体制回復のため、医師・看護師の確保に継続的に取り組むとともに、職員の離職防止を重点課題として、就労環境の改善にも積極的に取り組んでまいりました。

さらに、母乳を基本とした乳幼児支援を推進する病院として、「赤ちゃんにやさしい病院」の認定を受けるとともに、兵庫県の西播磨圏域における「へき地医療拠点病院」の指定も受けました。

医療機器においては、昨年度から取り組んでまいりました新電子カルテの整備が完了し、新システムを稼働することができました。

今後も、「良い医療を、効率的に、地域住民とともに

に」を基本理念として、市民と地域に信頼される病院を目指してまいります。

経理の状況

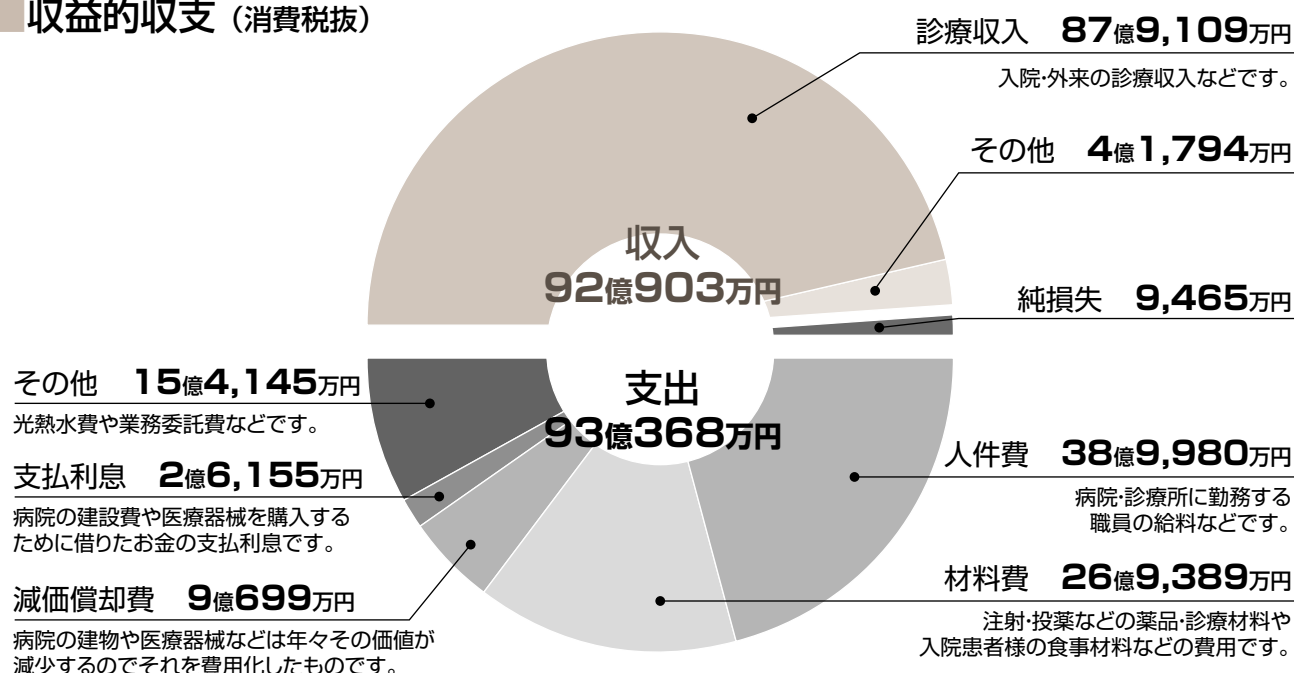
経営状況を表す収益的収支については、総収益9,209,031,182円、総費用9,303,680,475円となり、94,649,293円の赤字となりました。

資本的収支は、企業債などの収入520,766,532円に対し、医療機器整備などの支出1,259,048,760円となり、その差額738,282,228円については内部留保資金で補てんいたしました。

今後の病院運営

今後の病院運営につきましては、平成21年3月に策定した「赤穂市民病院改革プラン」に従い、医師・看護師等の医療従事者の確保に継続的に取り組んでいくとともに、患者ニーズに合った診療体制の整備と病院経営の健全性維持に努めてまいります。

収益的収支（消費税抜）



■患者利用の状況

1. 診療科別一日平均患者数

【病院】

(単位：人)

区分	内科	呼吸器科	消化器科	循環器科	小児科	外科	産婦人科
入院	27.3	14.7	82.0	64.6	4.2	6.6	18.2
外来	132.1	52.6	173.7	106.4	35.1	42.1	38.3
区分	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	整形外科	泌尿器科	放射線科	脳神経外科
入院	1.0	4.1	1.9	64.4	15.9	0.0	19.1
外来	33.1	42.8	49.7	140.2	49.0	8.5	21.2
区分	麻酔科	形成外科	心療内科	精神科	歯科口腔外科	計	
入院	0.2	4.8	0.0	0.0	2.1	331.1	
外来	16.6	22.3	1.4	0.0	29.3	994.4	

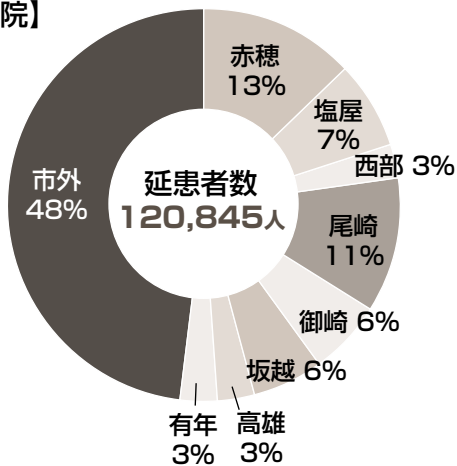
【診療所】

(単位：人)

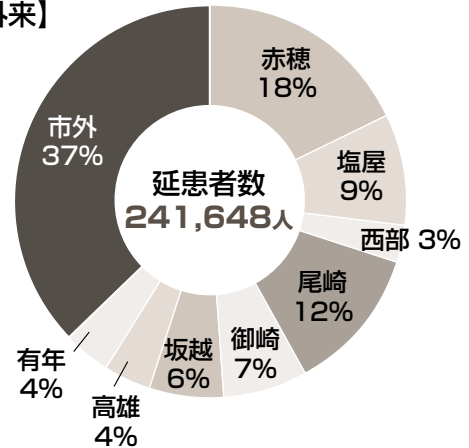
区分	高雄	福浦	有年	合計
外来	11.6	10.8	12.3	34.7

2. 地区別患者比率

【入院】

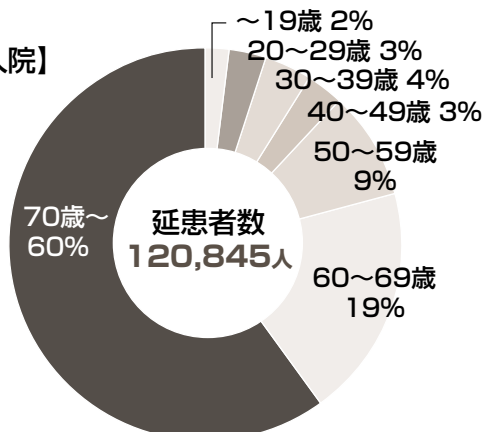


【外来】

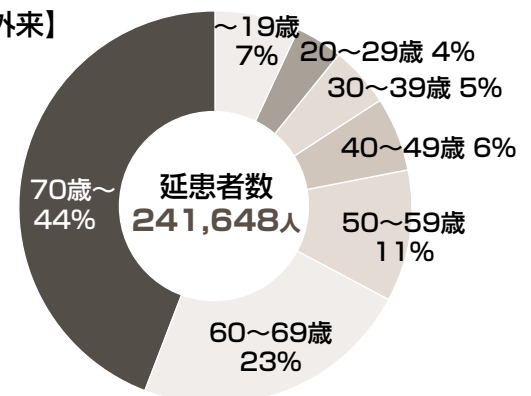


3. 年齢別患者比率

【入院】



【外来】



水道事業の決算

問い合わせ先
上下水道部総務課 ☎43・6888

業務の状況

平成22年度は、51,257人の方々に1日平均34,657㎡の水をご使用いただき収益的収支は、総収益894,485,936円、総費用826,797,827円となり、67,688,109円の黒字となりました。この利益は平成23年度以降の水道施設の建設や企業債の借入金の返済に充てられます。

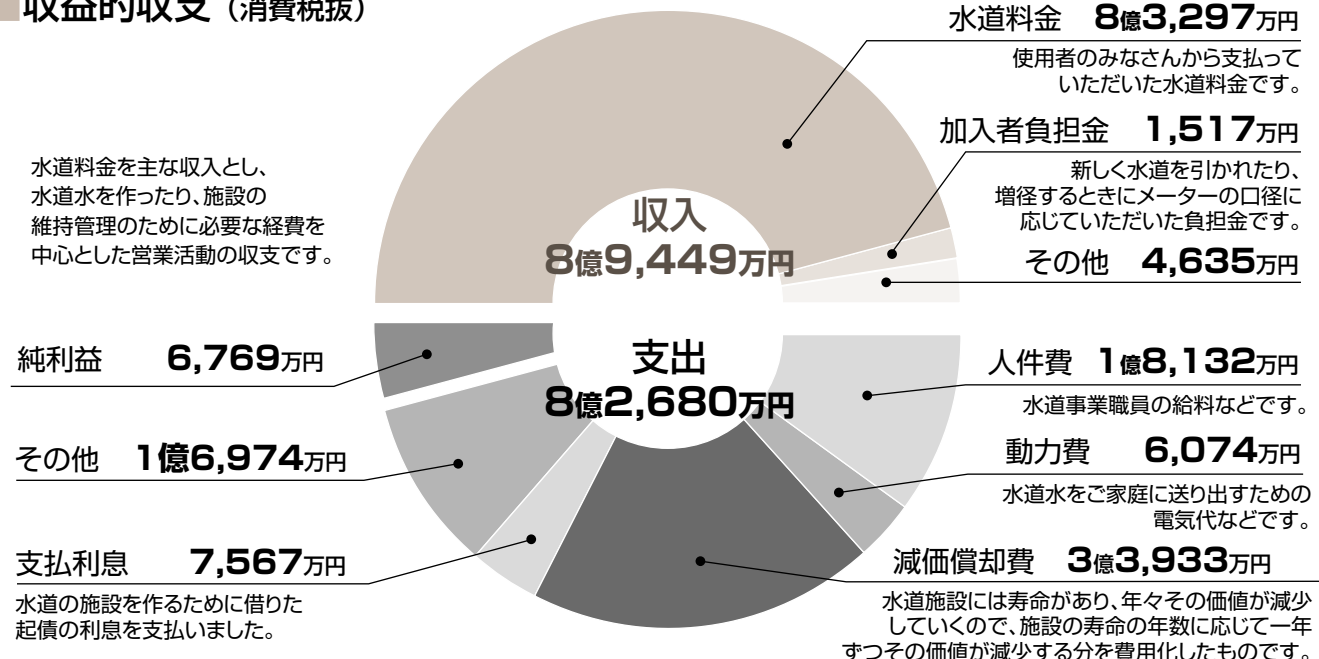
資本的収支は、水道施設の建設事業を実施し、支出1,028,660,637円に対し、収入634,026,411円となっています。平成22年度の主な建設改良工事は次のとおりです。

なお、国等からの借入金（起債）残高は1,693,942,105円で、これは長期にわたり水道料金をもって計画的に返済していくことにしています。

平成22年度の主な建設改良工事

- 配水管布設工事
事業費 55,113,450円
・宅地開発などに伴い、新しい管を布設しました。
（平成22年度は、1,126.0m新設しました）
- 配水管改良等工事
事業費 37,888,200円
・老朽化した配水管を新しい管に取り替えました。
（平成22年度は、270.6m改良しました）
- 原水施設改良工事
事業費 210,791,700円
・東有年水源地などの施設を整備しました。

収益的収支（消費税抜）



178項目の検査で安全な水を安定的に

平成22年度の水道水質

赤穂市の水道水源は全国名水 100 選に選ばれている千種川水系の浅井戸水と表流水です。

現在でも浅井戸水は良好な水質を保持しており、表流水も取水埋渠による取水方法で良好で安定した水質を保持しています。

上下水道部では原水の水質にあった浄水処理を実施しており、また、安全で安心して飲めるおいしい水をみなさまのご家庭にお届けするため、水質基準に定められた検査を実施しています。

平成 22 年度の水質検査の結果は、次のとおりで、すべて水質基準値を満たしています。また、これら水質基準項目（50 項目）に加え、目標設定項目 27 項目（農薬 102 項目含む）の検査を随時行い、より安全で良質な水を安定的に供給しています。

水道メーターの検針にご協力を

赤穂市では2ヵ月ごとに水道メーターの検針をしています。次のことについて、皆さまのご協力をお願いします。

- 水道メーターボックスの上には、物を置かないでください。
- 水道メーターボックスの中には、いつもきれいにしておいてください。
- 犬は、出入口や水道メーターボックスから離してつないでください。

水道使用水量等のお知らせ

2ヵ月ごとに検針をして「水道使用水量等のお知らせ」を各戸に通知しています。

主な内容は、①今回の使用水量 ②今回請求予定金額と納付（振替）予定日 ③水道料金と下水道使用料（または排水処理施設使用料） ④前回分口座振替内容 ⑤通信欄と裏面でお願事項等をお知らせしています。

水道料金等の納付は便利な口座振替を

水道料金は下水道使用料（または排水処理施設使用料）とともに2ヵ月ごとにいただいています。（納入期日は営業日でない日はその翌日）
納入期日を忘れてたり、お支払いに出向くなどの手間が省ける便利な口座振替を是非ご利用ください。

安価な料金を維持

上下水道部では、市民の皆さまに安全で安価な水を安定的にお届けするために、施設整備をはじめ、老朽管の取り替えや地震などの災害対策に取り組んでいます。水道事業は地方公営企業法によって独立採算制となっております。営に必要なのはほとんど経費は水道料金収入で賄われております。水道料金はコスト削減等に努めることにより安価な料金を維持しています。

放射性物質による水道水の影響について

放射性物質のモニタリング調査の結果、放射性物質の影響はなく、安全です。

給水栓水質測定結果（22年度平均値）

「<」は定量限界未満

番	検査項目	基準値等	北部水源系給水栓	南部水源系給水栓	備考
1	一般細菌	100個/ml以下	1	0	病原微生物
2	大腸菌	不検出	不検出	不検出	
3	カドミウム及びその化合物	0.003mg/l以下	<0.0003	<0.0003	
4	水銀及びその化合物	0.0005mg/l以下	<0.00005	<0.00005	重金属
5	セレン及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
6	鉛及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
7	ヒ素及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
8	六価クロム化合物	0.05mg/l以下	<0.005	<0.005	無機物
9	シアン化物イオン及び塩化シアン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
10	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/l以下	2.13	0.81	
11	フッ素及びその化合物	0.8mg/l以下	0.10	0.10	
12	ホウ素及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.02	<0.02	有機物
13	四塩化炭素	0.002mg/l以下	<0.0002	<0.0002	
14	1,4-ジオキサン	0.05mg/l以下	<0.005	<0.005	
15	シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下	<0.004	<0.004	
16	ジクロロメタン	0.02mg/l以下	<0.002	<0.002	消毒副生成物
17	テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
18	トリクロロエチレン	0.03mg/l以下	<0.003	<0.003	
19	ベンゼン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
20	塩素酸	0.6mg/l以下	<0.06	<0.06	着色
21	クロロ酢酸	0.02mg/l以下	<0.002	<0.002	
22	クロロホルム	0.06mg/l以下	<0.001	0.001	
23	ジクロロ酢酸	0.04mg/l以下	<0.004	<0.004	
24	ジブロモクロロメタン	0.1mg/l以下	0.001	0.002	味
25	臭素酸	0.01mg/l以下	0.001	<0.001	
26	総トリハロメタン	0.1mg/l以下	0.001	0.004	
27	トリクロロ酢酸	0.2mg/l以下	<0.02	<0.02	
28	ブロモジクロロメタン	0.03mg/l以下	<0.001	0.002	着色
29	ブロモホルム	0.09mg/l以下	0.001	<0.001	
30	ホルムアルデヒド	0.08mg/l以下	<0.008	<0.008	
31	亜鉛及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.01	<0.01	
32	アルミニウム及びその化合物	0.2mg/l以下	<0.01	0.01	味
33	鉄及びその化合物	0.3mg/l以下	<0.03	<0.03	
34	銅及びその化合物	1.0mg/l以下	0.02	<0.01	
35	ナトリウム及びその化合物	200mg/l以下	9.0	6.9	
36	マンガン及びその化合物	0.05mg/l以下	<0.001	<0.001	味
37	塩化物イオン	200mg/l以下	15	11	
38	カルシウム、マグネシウム等（硬度）	300mg/l以下	72	51	
39	蒸発残留物	500mg/l以下	121	85	
40	陰イオン界面活性剤	0.2mg/l以下	<0.02	<0.02	発泡
41	ジェオスミン	0.00001mg/l以下	<0.000001	<0.000001	
42	2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/l以下	<0.000001	<0.000001	
43	非イオン界面活性剤	0.02mg/l以下	<0.005	<0.005	
44	フェノール類	0.005mg/l以下	<0.0005	<0.0005	臭気
45	有機物（全有機炭素）	3mg/l以下	<0.3	<0.3	
46	pH値	5.8～8.6	6.7	6.9	
47	味	異常でないこと	異常なし	異常なし	
48	臭気	異常でないこと	異常なし	異常なし	基礎的性状
49	色度	5度以下	<1	<1	
50	濁度	2度以下	<0.1	<0.1	

北部水源系給水栓：有年地区（採水場所：西有年、有年原地区）
南部水源系給水栓：有年地区以外（採水場所：周世、坂越、福浦、御崎地区）

給水栓（蛇口の水）の検査結果は以上のとおりです。すべての項目及びすべての地点で基準値を下回っており、赤穂の水道水は安心してお飲みいただけます。

介護老人保健 施設事業の決算

問い合わせ先
介護老人保健施設 ☎42・1005

業務の状況

平成 22 年度は、前年度に続き入所利用者の安定確保に努めたことにより、短期の利用者で減少したものの長期の利用者が増加したことにより、延利用者数は増加しました。また、通所サービスは定員を 10 人から 20 人に変更したことにより、利用者数も大幅に増加しました。

平成 22 年度の入所利用者数は延 16,821 人（一日平均 46.1 人）、通所利用者数は延 2,836 人（一日平均 12.2 人）となりました。

経理の状況

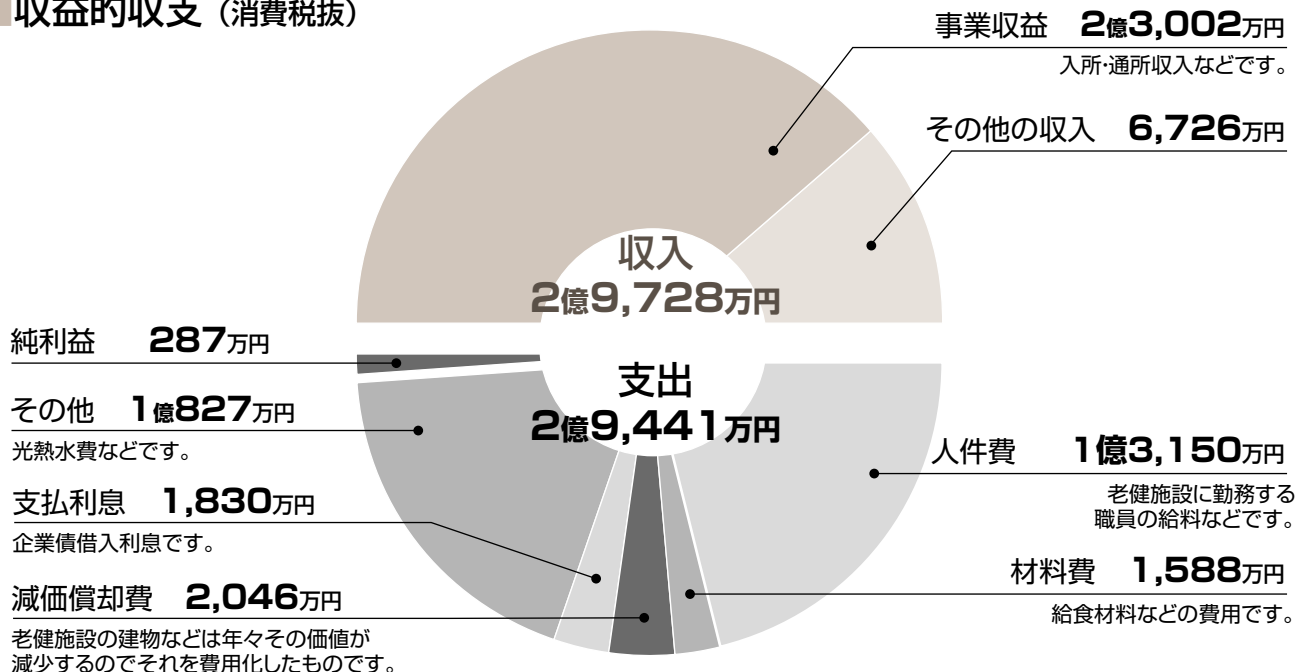
経営状況を表す収益的収支については、総収益 297,282,874 円、総費用 294,414,408 円となり、2,868,466 円の純利益となりました。

資本的収支は、収入総額 36,172,151 円、支出総額 38,491,876 円となり、差引不足額 2,319,725 円は内部留保資金で補てんしました。

今後の老健施設運営

利用者に選択される施設サービス及び居宅サービスの提供を基本として、経営の安定に取り組んでまいります。

収益的収支（消費税抜）



利用者の状況

(単位：人)

区 分	延利用者数		一日平均利用者数
	入 所	長 期	15,145
	短 期	1,676	4.6
計		16,821	46.1
通 所		2,836	12.2

平成23年度予算 上半期の状況

6月補正予算までに、東日本大震災にともなう災害復興支援金及び災害対策支援費等に4,315万円、文化財保存整備事業に1,280万円などを計上したほか、9月補正予算までに、県単独緊急ため池整備事業に1,300万円などを計上しました。

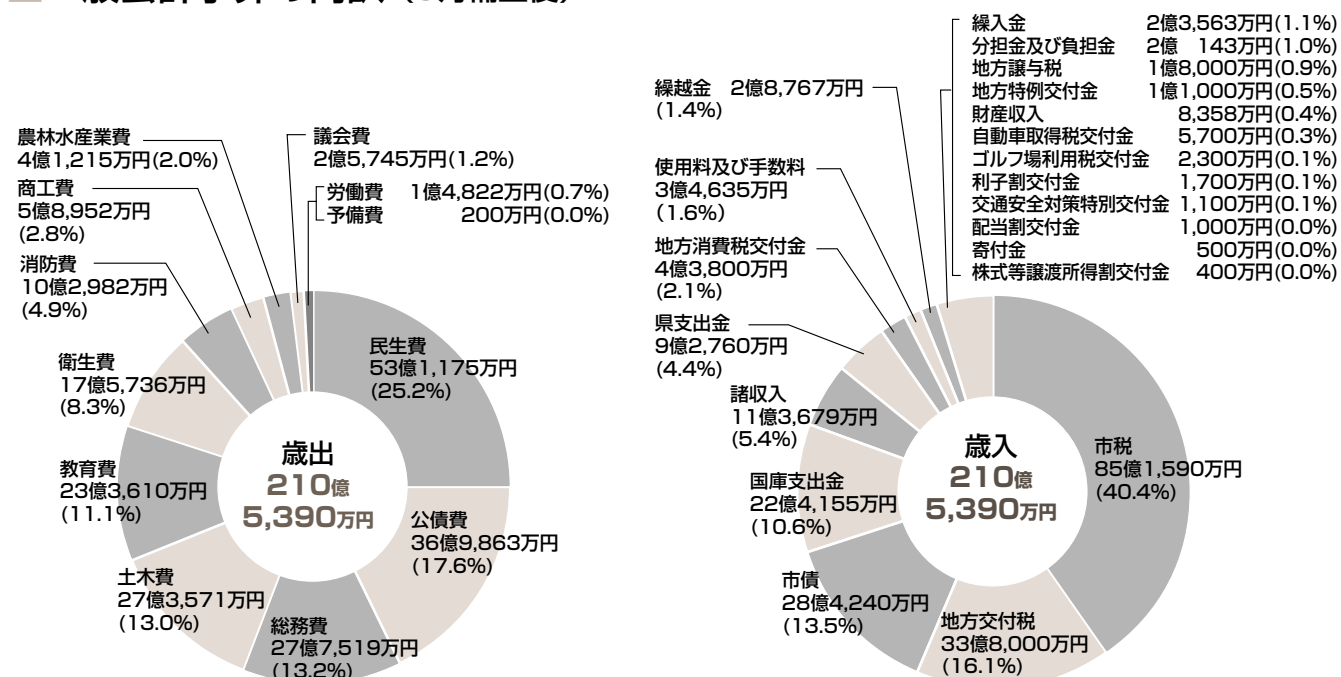
これにより特別会計、企業会計を合わせた9月補正後の平成23年度予算総額は、当初より4億4,875万円増えて、471億2,742万円となっています。



各会計別予算状況

会計区分	平成23年度当初予算額	6月補正まで	9月補正まで	平成23年度現計予算額	
一般会計	206億6,000万円	3,730万円	3億5,660万円	210億5,390万円	
特別会計	国民健康保険事業	54億2,070万円		54億2,070万円	
	職員退職手当管理	10億4,500万円		10億4,500万円	
	公共下水道事業	28億3,690万円		28億3,690万円	
	農業集落排水事業	2億2,880万円		2億2,880万円	
	墓地公園整備事業	1,840万円		1,840万円	
	介護保険	32億3,230万円		3,964万円	32億7,194万円
	駐車場事業	1億2,300万円			1億2,300万円
	土地区画整理事業清算金	280万円			280万円
	後期高齢者医療保険	5億5,580万円			5億5,580万円
	小計	134億6,370万円		3,964万円	135億334万円
企業会計	病院事業	107億3,901万円		107億3,901万円	
	介護老人保健施設事業	3億3,296万円		3億3,296万円	
	水道事業	14億8,300万円	1,521万円		14億9,821万円
	小計	125億5,497万円	1,521万円		125億7,018万円
合計	466億7,867万円	5,251万円	3億9,624万円	471億2,742万円	

一般会計予算の内訳 (9月補正後)





写真で見る決算

土地区画整理事業



事業費 **6億7,179万円**

一般財源ほか
6,269万円

市債
4億2,060万円

国庫支出金
1億8,850万円

有年地区、野中・砂子地区、浜市地区における土地区画整理事業を推進し、道路や公園などの整備並びに宅地の利用増進を図り、快適で機能的な生活空間の創出を推進しました。

高所放水車整備事業



事業費 **1億8,452万円**

一般財源
1,302万円

市債
1億7,150万円

火災などの災害から市民生活を守るため、高所放水車の更新整備を行い、消防体制の充実を図り、防災基盤の整備を推進しました。

中心市街地にぎわいづくり事業



事業費 **488万円**

一般財源
488万円

いきつき広場でのイベントの開催や、商工会議所と連携して従来の「しおばなまつり」を拡充した「まるごと赤穂大博覧会」を開催するなど、地域のにぎわいを創出しました。

遊具安全対策事業



事業費 **2,964万円**

一般財源
2,964万円

幼稚園・小学校をはじめ、児童遊園地・都市公園の遊具について、専門技術者による定期点検の結果を踏まえ、危険遊具の撤去・修繕、更新を行いました。

塩屋児童館建設事業



事業費 **5,189万円**

一般財源ほか
815万円

市債
2,050万円

県支出金
2,324万円

子どもの健全育成のため、塩屋公民館敷地内に、新たに児童館を建設し、地域の子育て活動の拠点を整備しました。

アスベスト除去事業



事業費 **9,264万円**

一般財源
316万円

市債
5,860万円

国庫支出金
3,088万円

基準値はクリアしているものの、多くの市民に利用されている市民会館、尾崎公民館、赤穂中学校屋内運動場のアスベスト除去工事を実施し、安全・安心対策を推進しました。

予防接種費助成事業



事業費 **3,087万円**

一般財源
2,159万円

県支出金
928万円

肺炎球菌ワクチン、インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチンの接種費用の一部を助成することにより、高齢者や乳幼児の疾病の重症化予防を図りました。

市民憲章

わたくしたちの赤穂市は、播磨灘と千種川の清流にはぐくまれ、古い歴史と伝統をもつ、義士発祥のまちです。

このまちを愛するわたくしたちは、誇りと責任をもち、自然と調和のある豊かで希望にみちたふるさとづくりをめざし、ここに市民憲章を定めます。

1. 自然と歴史を大切にし、美しいまちをきぎきます。
1. 教養を高め、文化の向上につとめます。
1. 健康で働き、明るい家庭をつくります。
1. 互いに助け合い、愛の輪をひろげます。
1. きまりを守り、秩序ある生活をおくります。